

都市再生整備計画

にほんまつじょうあとしゅうへんちく
二本松城跡周辺地区

福島県 にほんまつし
二本松市

平成29年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福島県		二本松市	地区名	二本松城跡周辺地区	面積	106.5 ha
計画期間	平成	30	年度	～	平成	34	年度
				交付期間	平成	30	年度
					～	平成	34
							年度

目標

【大目標】二本松の歴史・文化・魅力を伝える新たな交流拠点の整備と観光振興による地域の活性化

[小目標①]観光交流拠点の整備による利便性と景観性の向上および賑わいの創出

[小目標②]歴史文化の伝承と体験による認知度の向上と市民の誇りの醸成

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ①二本松市は、平成17年に1市3町が合併し、県都福島市と郡山市の間に位置し、市の中心から国道4号で福島市、郡山市へともに約30分程度の距離にある。
- ②本市は縄文時代から人の居住の続く、長い歴史をもった地域である。藩政時代には、奥州二本松藩十万七百石の城下町として栄え、二本松城(霞ヶ城)跡は国の史跡に指定(H19)されている。
- ③城下町として栄えた伝統的な雰囲気の中、『二本松の菊人形』『二本松の提灯祭り』『小浜の紋付祭り』『針道のあばれ山車』『木幡の幡祭り』など個性と趣のある祭りは、貴重な財産となっており、こうした歴史文化が今に受け継がれている。さらに、智恵子抄や能「黒塚」の舞台としても有名で、文化的な風土を醸し出している。
- ④本市においても人口は減少傾向にあり、少子高齢化も顕著となっている。また、小売業の大幅な店舗数の減少(H11:815事業所→H24:487事業所)や、旧奥州街道沿道に形成された中心商店街においても空き店舗の増加が続いている。
- ⑤本市の観光入込客数は東日本大震災後に増加傾向にあり、県内ではいわき市、福島市、郡山市、北塩原村に次ぐ入り込み客数を誇っている。ただし、城跡内で開催される「二本松の菊人形」の入込客数はピーク時の6割減の落ち込みを見せており、集客のための対策が急務となっている。
- ⑥「二本松城跡周辺地区」については、昭和61年に「霞ヶ城公園総合整備計画策定懇話会」を設置、平成2年に「二本松城址調査委員会」による多面的な調査を開始するなど、今後の霞ヶ城公園整備計画の基礎資料を蓄積してきた。その後、文化庁・県文化課の指導・助言のもと、平成9年に「二本松城址保存管理計画報告書」を作成した。平成16年に設置した委員会の指導に基づき年次計画で発掘調査や絵図面調査等を進め、平成19年7月26日に国史跡「二本松城跡(にほんまつじょうあと)」として指定を受けた(面積は約17ha)。二本松城跡は遺構の残存状況が良く、中世城館と近世城郭が同一箇所で見られ、これが最大の特色となっている。
- ⑦これらの各種調査・提言・計画による多くの資料の蓄積を重ね、これを市民に還元しながら「遺跡保存」と「公園活用」という2つの側面を矛盾なく推進することを目的として、平成23年に「二本松城跡整備基本計画」(二本松市教育委員会)が策定された。
- ⑧近年、観光による地域振興や地方創生に注目が集まっており、国は「観光立国」の推進を掲げている。本市でも観光客の増加・市街地への誘導や滞在を促す新たな核として平成27年度に「二本松城跡前整備基本構想」を策定し、検討を進めてきている。
- ⑨平成28年に策定された「二本松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、地域全体の観光マネジメントを一本化する組織であるDMOの立ち上げが計画されており、日本版DMO候補法人登録申請に向けた検討が進められている。

課題

- ①二本松市のシンボルでもある国指定史跡「二本松城跡」(霞ヶ城公園)について、沿道や園路、駐車場等の利便性と安全性の確保、および景観性の向上を図る必要がある。
- ②現在不足している観光情報発信機能を整備するとともに、市内に点在する観光施設や中心商店街への送客機能を確保する必要がある。
- ③区域内を中心に開催される祭りやイベントを活性化させるため、ハード・ソフト両面での支援が必要である。
- ④本市の歴史と伝統文化を体験・体感させることにより、市民の誇りの醸成や、観光振興による地域の活性化を図る必要がある。
- ⑤増加する観光客やインバウンドへの対応のため、障がいの有無や年齢等だけでなく、国籍の違いにも対応できる誘客・移動手段の確保と環境整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- ①「新二本松市総合計画(平成28年度策定)」において、「二本松城跡総合整備事業」として『城跡前に観光案内・歴史資料展示施設などの整備』が計画されている。
- ②「二本松市都市計画マスタープラン(平成21年度策定)」の基本方針において、「城下町としてのたずまいや様々な伝統行事など、二本松市独自の文化や歴史的風情を感じさせるような要素を取り入れた景観整備を推進します」と設定されている。
- ③「二本松市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年度策定)」において、「国指定史跡である二本松城跡(県立霞ヶ城公園)の周辺に観光拠点となる通年観光施設を整備し、観光案内や歴史資料の展示を行うことにより観光客の滞在時間の拡大を図るとともに、市内全域への誘客の波及を目指します。」と計画されている。

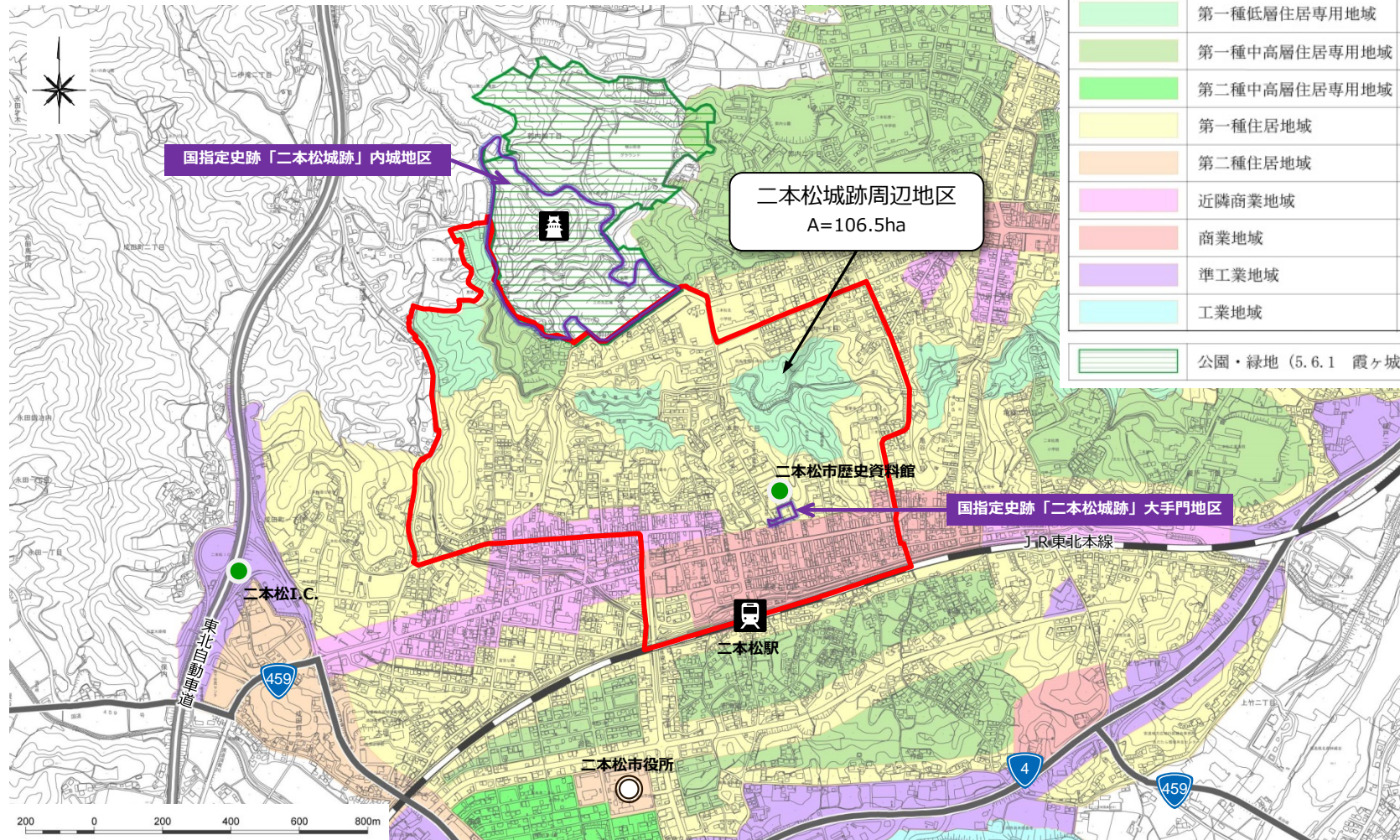
目標を定量化する指標(案)

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
霞ヶ城入込客数	人/年	霞ヶ城公園の年間入込客数(福島県観光客入込状況)	観光振興と賑わいの創出を、霞ヶ城の年間入込客数で指標化する。【目標1、2に関連】	434,721	H27	525,000 (ピーク時のH21と同水準)	H34
観光資源の認知度	%	福島県外居住者の、「二本松城」と「菊人形」の認知度(アンケート調査)	観光振興と認知度の向上を、観光施設・代表的な祭りの認知度で指標化する。【目標2、1に関連】	22.2	H28	32.2 (10%向上)	H34
二本松城跡周辺の平均滞在時間	分	二本松城跡への来訪者の平均滞在時間(実地計測)	観光振興と賑わいの創出を、来訪者の平均滞在時間で指標化する。【目標1、2に関連】	51	H29	80 (30分増加)	H34

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【二本松城跡(霞ヶ城公園)の価値の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二本松城跡に誘導する主要道路であるとともに歴史的価値も高い沿道について、ふさわしい景観となるように舗装改良や照明整備等を行う。 二本松城跡周辺の駐車場やスペースについて、出土した遺構等に配慮した上で、景観向上と有効利用が図れるような施設整備を行う。 霞ヶ城公園内の既存施設や園路等のうち、景観にそぐわないものや耐震性・安全性の補強が必要なものについては、関連計画との整合性に配慮した上で、必要に応じ適切な整備を行う。 復元された箕輪門について、内部を観光客が通行・見学できるように照明設備等を整備する。 	<p>【基幹事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 霞ヶ城第2公園(公園) 多目的広場(地域生活基盤施設) 第5駐車場(同上) 観光案内板(同上) デジタルサイネージ(同上) 市道箕輪門通線舗装美化(同上) <p>【関連事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 城跡内案内板リニューアル 城跡内ベンチリニューアル 城跡内園路リニューアル 箕輪門展示スペース環境整備
<p>【観光情報発信、市内拠点への送客、歴史文化展示と体験、イベント振興機能の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光情報の発信や市内に点在する観光資源・中心商店街への送客機能を確保する。 城跡周辺や観光交流センターから街なかへの誘導機能のひとつとして、シャトルバスによる送客の社会実験を行う。 地場産品の試食や直売施設により市内中心商店街への誘客を図るとともに、インバウンドの利便性と消費向上を目的とした免税会計機能を確保する。 本物を展示することにより本市の歴史をリアルに体感できるほか、バーチャル・リアリティでも体験できる多角的な歴史展示施設(機能)を整備する。 日常には広場・駐車場として活用し、伝統的な祭りやイベント時にはその魅力を十分展開できるような有効活用できる空間を整備する。 	<p>【基幹事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 霞ヶ城第2公園(公園) 観光交流センター(高次都市施設) 多目的広場(地域生活基盤施設) 第5駐車場(同上) <p>【提案事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> バーチャルリアリティ作成(地域創造支援事業) コミュニティバス社会実験(まちづくり活動推進事業)
<p>【誘客や移動手段の確保による交通利便性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的価値の高い地形等を保全しつつ、障がいや年齢等により移動が困難な来訪者に向け、城跡入口と展望台を結ぶシャトルバス機能整備を検討する。 シャトルバスの整備検討にあたり、社会実験を行い、その有効性や採算性等について確認する。 二本松駅前または市内各所からの案内を強化するために、分かりやすく、多言語にも対応した案内板等を整備する。 城跡内の案内板の一部について、再整備が必要と判断されるものを関連計画との整合性に配慮した上でリニューアルする。 城跡内の園路で、安全性に問題があり特に改修が必要な箇所を歩きやすいものに再整備するとともに、歴史的な園路の復元整備を行う。 	<p>【基幹事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 多目的広場(地域生活基盤施設) 観光案内板(同上) デジタルサイネージ(同上) <p>【提案事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> コミュニティバス社会実験 <p>【関連事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 城跡内案内板リニューアル 城跡内園路リニューアル
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交付期間中の計画の管理について(庁内調整、住民参加プロセス) <ul style="list-style-type: none"> 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、庁内部会を継続的に開催する。 都市再生整備計画や計画概要等を市の広報誌やホームページで公開し、市民からメール等で意見の聴取を行うこととする。 ○ 継続的なまちづくり活動(モニタリング・持続的なまちづくり体制) <ul style="list-style-type: none"> 事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け、中・長期の目標達成を目指し、継続した都市再生整備計画事業の活用も含め検討を行うものとする。 なお、その検討にあたっては、引き続き庁内部会等を存続させていくこととする。 商工会や観光協会、まちづくりNPO等とも連携しながら、都市再生整備計画事業の効果を最大限に高めるようなまちづくり活動を展開していく。 	

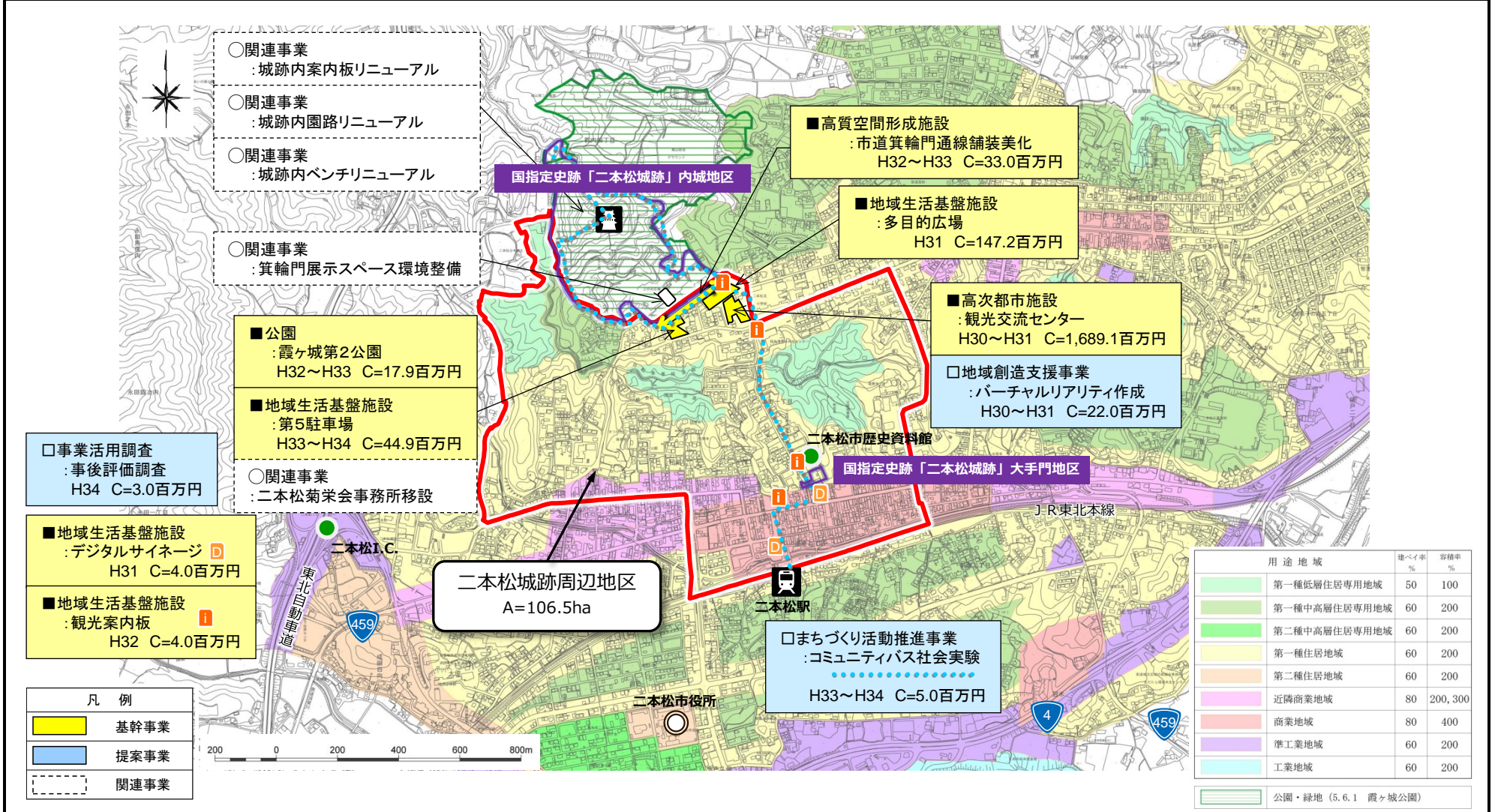
二本松城跡周辺地区(福島県二本松市) 整備方針概要図 (区域設定根拠)



用途地域	建ぺい率 %	容積率 %
第一種低層住居専用地域	50	100
第一種中高層住居専用地域	60	200
第二種中高層住居専用地域	60	200
第一種住居地域	60	200
第二種住居地域	60	200
近隣商業地域	80	200, 300
商業地域	80	400
準工業地域	60	200
工業地域	60	200
公園・緑地 (5.6.1 霞ヶ城公園)		

二本松城跡周辺地区(福島県二本松市) 整備方針概要図

目標	【大目標】二本松の歴史・文化・魅力を伝える新たな交流拠点の整備と観光振興による地域の活性化	代表的な指標	霞ヶ城公園入込客数 (人/年)	434,721	(H27年度)	→	525,000	(H34年度)
			観光資源の認知度 (%)	22.2	(H28年度)	→	32.2	(H34年度)
			城跡周辺の平均滞在時間 (分)	51	(H29年度)	→	80	(H34年度)



都市再生整備計画の区域

二本松城跡周辺地区(福島県二本松市)	面積 106.5 ha	区域 【以下の全部】二本松市郭内4丁目、郭内3丁目、若宮1丁目、松岡 【以下の一部】二伊滝1丁目、本町1丁目、本町2丁目、亀谷一丁目、郭内1丁目
--------------------	----------------	--

